

- 対象地域  
広島県山県郡北広島町  
(西中国山地国定公園)
- 設立日:H16.11.7
- 構成員数:31人
- 全体構想作成日:H18.3.31
- 実施計画作成日:H18.10.30  
(R2.3月現在)

やわたしつげんしぜんさいせいきょうぎかい

## 八幡湿原自然再生協議会

再生  
目標

「命の環 つなげる」をキャッチフレーズに、牧草地造成前の昭和30年代前半頃の湿原生態系を再生する。

## 【事務局】

730-8511  
広島市中区基町10-52  
広島県自然環境課  
野生生物グループ内  
電話:082-513-2933



本地域は、広島県の北西部に位置し、1,000m級の山に囲まれた標高800mの盆地です。また、ヌマガヤーマザミ群集に代表される中間湿原が点在し、自生のものとしては貴重なカキツバタが生育しています。

しかし、牧場化に伴う排水施設や道路の整備が原因と思われる湿原の乾燥化により、周辺部からアカマツやイヌツゲ等の木本類が侵入し、希少種の生育環境が悪化しています。このため、自然生態系の保全・再生のための計画を作成、湿原環境の再生に向けた取り組みを進めています。

## 活動報告

## 霧ヶ谷湿原の鳥類(その2)

【報告者】認定NPO法人西中国山地自然史研究会

上野 吉雄

認定NPO法人西中国山地自然史研究会は霧ヶ谷湿原の自然再生にあたり、2005年から15年間にわたり鳥類相の調査をしています。その過程でミヤマホオジロの繁殖を確認しました。2006年の調査では霧ヶ谷湿原でミヤマホオジロとノジコのオスを各1個体確認しました。ホオジロは乾燥したノイバラハルガヤ群落を選択し、ミヤマホオジロとノジコは湿ったカンボク群落を選択していることが明らかになり、霧ヶ谷における八幡湿原自然再生事業において、県内では希少なミヤマホオジロとノジコが繁殖地として選択している氾濫原に発達したハンノキを含むカンボク群落をできるだけ残す事が望ましいと結論づけました(上野ほか2008)。以来、14年が経過しましたが、ノジコの渡来は見られなくなりましたが、ミヤマホオジロは今日でも繁殖しており、今年も霧ヶ谷湿原で2個体がさえずっています。

最近、ミヤマホオジロは八幡高原以外でも隠岐の島、三瓶山などでも繁殖が確認されるようになり、その繁殖分布が広がっているようです。飛翔力のある鳥類の分布は数年で変わることがあるので、引き続きモニタリングを続けていきたいと思えます。西中国山地自然史研究会では秋に霧ヶ谷湿原をフィールドとした観察会が行っており、昨年の観察会ではベニマシコやジョウビタキ、キレンジャクなどを観察することができました。

また、日本野鳥の会広島県支部でも秋に霧ヶ谷湿原で採鳥会を行っており、昨年は希少なアオシギやカシラダカなどの冬鳥を観察することができました。

昨年の秋には霧ヶ谷湿原の駐車場周辺に13年ぶりにオオマシコが渡来し、連日、日本中からカメラマンが押し寄せました。これも霧ヶ谷周辺が開けた環境に維持され、オオマシコの餌となる、ヤマハギやカンボクなどが豊富に見られることがあげられます。引き続き西中国山地自然史研究会では霧ヶ谷湿原のモニタリングや観察会、保全活動などに取り組んでいきたいと思えます。



霧ヶ谷湿原で13年ぶりにオオマシコの飛来が確認された



2018/05/20

ミヤマホオジロは氾濫原に発達したカンボク群落で繁殖している

【引用文献】上野吉雄・森 春彦・小柴正記・藤原俊二・吉野由紀夫・白川勝信  
(2008) 広島県臥竜山麓におけるホオジロ科鳥類3種の生息環境選択. 高原の自然史 13: 53-63